

# レンズでのぞいた増尾の自然

篠崎 将

フキノトウ

フキは『牧野新日本植物図鑑』によると、「山地や平野の道端に生える雄雌異株の多年草で、根茎は非常に短くて地上には出ず、周囲に地中枝を出す。葉は花後に出て、多肉質で長く、その先に、腎臓型の葉身がある。葉は薄く、幅15~30cmである。早春に根から花茎を出し、次第に伸びて花後は長さ30cmになる」とある。

フキは漢名で「蔞」、日本では古くから「布々岐」と言い、後に「フキ」と呼ばれるようになったと言われている。

秋から地中で膨らんでいた花蕾は、暖気を先取りして地上に顔を出す。そのもえぎ色は早春の息吹であり、ほろ苦さは春の味わいである。冬眠から覚めたクマは真っ先に食べて目覚めると言う。



早春を告げるフキノトウ

## 健康教室開催

平成28年9月25日、増尾近隣センター体育室で健康教室を開催しました。

午前9時30分からのヨガ教室には28名が参加。講師は、石原由紀子先生です。準備体操のストレッチの後に次々とヨガのポーズ。汗を流し、さわやかな気分でした。

午後1時30分からは太極拳教室。18名が参加しました。今回はおなじみの豊島要子先生に代わり、磯山節子先生の指導です。80歳とのことですが、体のしんがぶれない滑らかな動きで教えてくださいました。準備体操で体を慣らしてから開始。最初は操り人形のような手足の動きでしたが、少しずつ形が決まってきました。最後に左手に右手の拳を合わせて一礼。

今後も、様々な年代の人がチャレンジできるスポーツを計画していきます。文化体育部 小林 みつえ

## 「ふれあいの森林づくり表彰」で 手賀沼森友会が全国最高賞

近頃、近くの森が明るくなったと思いませんか。手賀沼周辺の森林保全に取り組むNPO法人「手賀沼森友会」(保田行弘会長)が、国土緑化推進機構の「ふれあいの森林づくり表彰」で、最高賞の会長賞(4団体)を受賞し、平成28年10月9日、京都府で開催された全国育樹祭で表彰を受けました。

手賀沼森友会は平成18年に発足し、手賀沼周辺の70か所、50ヘクタール以上の森林で、53名の所有者と協定を結び、ごみの除去や木の間伐、植栽など森林の整備を行っています。増尾近辺では、ニッカ工場周辺、ライフスーパー前、土中学校下の森など。会のメンバーは25名で当地域からは保田さん(あざみ町会)、村松照夫さん(南ヶ丘町会)、木村隆行さん(加賀町会)、櫻井五夫さん(第一住宅増尾団地自治会)の4名が参加しています。「子どもたちや生きもののために森を残したい」と保田さん。

保田さんは、増尾近隣センターの美化活動を行う「緑のボランティア増尾ガーデニング」(根津光男会長)の世話役やその他自然保護活動、学校関係のボランティアも。

「ボランティアは楽しく、自分の勉強になることが大切。それがお役に立てばうれしい」と笑顔で語ってくれました。



総務広報部

美里ゴルフ近くの森で

### ふる協からのお知らせ

平成29年1月29日(日) 新春囲碁将棋大会

平成29年3月5日(日) 芸能発表大会

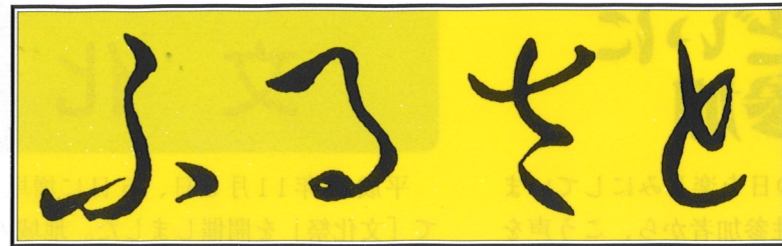
※詳細は回覧、チラシ等でお知らせします。

### ボランティア募集中

障がい者福祉施設で、毎月第2・第4金曜日、午前9時30分から12時まで、簡単な作業(園芸、手芸他)のお手伝いをしてくださる方を募集中。

地区社協部 吉川(TEL 7176-3631)まで、お問い合わせください。

We Love Kashiwa



吉田 稔 筆

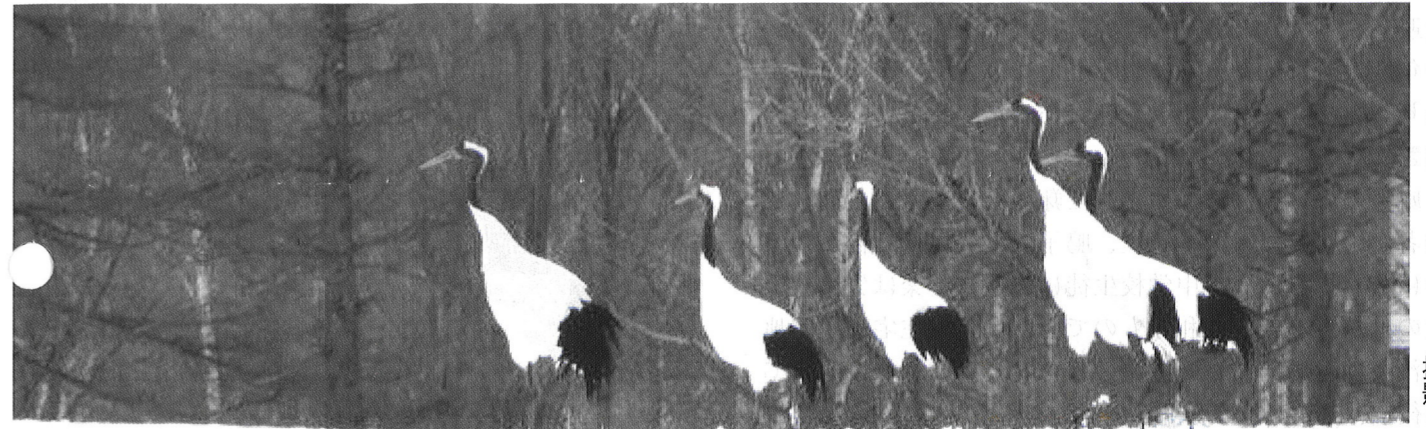
みんな元気 住んで良かった この地域

平成29年1月 No.120

●編集・発行  
柏市増尾地域ふるさと協議会  
(土地区社会福祉協議会)

〒277-0033  
柏市増尾三丁目1番1号  
増尾近隣センター内

☎ 04-7174-7211  
http://masuo80@live.jp



撮影 篠崎 将

## あけましておめでとうございます 会長 伊藤 主夫

ふるさと協議会活動は、充実した内容をもって順調に推移しています。平成28年11月には、多世代交流の場として活動を続けている「サロンつちのこ」と「サロンますのこ」に、他団体の地域づくりリーダー講習会の参考にと訪問がありました。他にも問い合わせなどがあり、心を持たれています。また、柏市と共催で行った増尾地域防災訓練の実施、増尾近隣センター駐車場の「カ

シニワ」庭園の設置など、今までの活動に加えて特筆すべきものがありました。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜と感謝をいたしております。

今年は高齢者の生活支援活動として「見守り助け合い活動」を、スタートさせるべく検討中です。高齢者が増える中、いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすための支援活動です。

みんなで協力し合って、楽しく明るい「ふるさと」にしていきたいと思います。

## 私の町会・自治会だより

皆さんの町会・自治会を紹介していくコーナーです。

### あざみ町会



あざみ町会は、増尾8丁目の一画にあります。町名の由来は、開発当時アザミの花が群生していたことにちなんだのではと聞いています。昔は、豪雨になると水はけの悪い土地でしたが、下水道の普及でずいぶん改善された実感しています。

現在、会員数は34世帯、役員は毎年輪番制で運営をしており、ご多聞にもれず少子高齢化の波が確実に寄せている感否めません。かつてはミニ運動

会を行ったり、子どもたちの声飛び交うにぎやかな時代もあったのですが、今はイベントもままならない状態です。

このように、いろいろ課題を抱えていますが、これからも小規模町会ながら、会員同士、フェイス・トゥ・フェイスの利点を生かした町会であり続けてほしいと願っております。 会長 西條 直樹





# 敬老のつどいに 510名参加

「音楽が好きなので、毎年この日を楽しみにしています。」早くから会場に来ていた女性参加者から、こう声をかけられました。

平成28年9月18日、土中学校体育館において、「敬老のつどい」を開催しました。台風の影響が心配されましたが、開始時には雨も上がり、地域のお年寄り510名を迎えることができました。高齢者が増加しているため、今年度から対象者を71歳以上としましたが多数の出席があり、中でも90歳以上のお元気なお年寄りが、14名も参加されたことは驚きでした。

威勢のいい掛け声で始まった翔の会による銭太鼓。参加者が手にした太鼓、花笠、鳴子で、会場と舞台がひとつになりました。土中学校生徒による吹奏楽は先生、生徒の独唱もあり、心むもものでした。第一住宅増尾団地自治会の有馬芳枝さん指導のリフレッシュ体操、そして最後は、柏南高校吹奏楽部の迫力ある演奏でした。

今年は、懐かしい美空ひばりメロディーが多く、会場からは合わせて歌う声も。毎年楽しみにしていると言ってくださった参加者の方も、きっと一緒に歌っていたことでしょう。

総務広報部 嶋田 由紀江



元気なお年寄りです。いっぱい会場

## 環境フェア2016パネル展

平成28年11月5日、6日の2日間にわたり、文化祭でにぎわう増尾近隣センター体育室の入り口で「環境フェア2016パネル展」を開催し、「地球温暖化対策」「ストップ特殊詐欺」などのパネルを展示しました。また、ふる協が50世帯に配布したゴーヤ苗の成果報告を「緑のカーテン報告」のパネルにして見ていただきました。

特殊詐欺（振り込め詐欺）は、次から次へといろいろな手口で狙っています。「自分は大丈夫」と思わず、周りの人に相談してください。

環境部 小林 和英

# 文化祭

平成28年11月5日、6日に増尾近隣センターにおいて「文化祭」を開催しました。地域の方々の書道、絵画、手芸、工芸、写真、華道などの力作や地域内の学校の児童、生徒の作品を展示しました。また、会議室で作成したトールペイントの怪獣は子どもたちに、クリスマスリースはお母さんたちに大好評でした。

総務広報部



どんな色の怪獣の誕生かな

## 地域ふれあいのつどい

平成28年11月5日、増尾近隣センター駐車場で「地域ふれあいのつどい」を開催しました。開始時間前に来場する人が多く、時間を繰り上げて始まりました。おもちの人気は一番。あっという間に行列が。他にも、やさそば、おでん、やさとり、「ハッピーサロン増尾」のコーヒー、「サロンつちのこ」の豚汁などの出来立てを食べる人で休憩コーナーはいっぱいに。

地域の皆さんが楽しみにして下さるこのイベントに、土中学校、柏南高校の生徒たちは、欠かせない頼もしいスタッフになりました。

総務広報部



あっという間におもちの前には行列が

# 増尾地域防災訓練 841名が参加

平成28年10月16日、11月20日の両日、柏市と増尾地域ふるさと協議会の共催で、「増尾地域防災訓練」を実施しました。会場は避難所となる4つの学校の体育館と一部校庭を使用。10月16日は柏南高校416名、11月20日は土中学校100名、土小学校234名、増尾西小学校91名が午前10時に各町・自治会の指定場所に集合の後、各校に参集しました。

避難所の運営の一環として、本部と各避難所の無線連絡で、集まった町・自治会の避難者数を報告、その数に基づき物資の輸送や配布などを行いました。他にも自助、共助、公助の認識を高めるための訓練をしました。

総務広報部



参加者による仮設トイレの組み立て訓練。手間取りました（土小学校）



消防署員によるガレキからの救出訓練の指導（土小学校）



避難場所に集まった参加者は、防災ステーションと仮設トイレの組立てを体験しました（柏南高校）

# 近場の大旅行に大満足

晩秋の色濃くなった平成28年11月27日、文化体育部主催「ちいき探検ウォーキング」が「増尾探検隊」「柏ふる里つくり隊」の協力のもと開催され、53名が参加しました。参加者の最高齢は85歳でした。

今回は増尾近隣センターを起点に、つばめ池、廣幡八幡宮、宮根遺跡、大津川沿い、エコ平板製作所、きつね山を回る約7キロ、1万2千歩、4時間のコースでした。

「不思議な建造物が気になっていた」（小林みつえ部長）というエコ平板製作所では理事長の橋田隆明さんの説明を受けました。エコ平板とは、廃材で作るモザイク平板のことで、「エコ平板・防塵マスク支援協会」が特許権を持ち、認定を受けた全国の授産施設などが製作をしています。

活動の第一の目的は障がい者の自立支援で、その輪は国内ばかりか世界に広がっています。数々の作品のパネル写真を見て、参加者一同、美しさに感嘆しました。



モザイク平板のパネル写真に感嘆

# 中高生61名が受講 防犯防災部

柏市東部消防署による「普通救命講習Ⅰ」を増尾近隣センターで実施して頂くようになって今年で5年になります。

平成25年からは「命を救う応急手当」と題して中高生を対象にした講習会を始めました。週末の近隣センター講習に何人の生徒が参加を希望してくれるのかまったく分からないままのスタートでした。今年度は13名が参加。平成28年までの4年間に、土中学校、中原中学校、柏第四中学校、柏南高校、流山おおたかの森高校、合わせて61名の生徒が受講しました。「学生の救命処置で人命救助」が話題になったこともあり、参加した生徒は男子も女子も一生懸命に取り組んでいました。今後、ひとりでも多くの中高生の受講を願っています。

ふる協主催の講習会は増尾近隣センターで行う中高生対象、一般対象それぞれ年1回です。その他については「広報かしわ」や柏市消防局のホームページに随時掲載されています。

防犯防災部 間宮 節子